

入場無料

植物と生き

緑と水と。
—その間に私たち、にんげんがいる。

青い星、地球。
そして、そこで暮らす私たち。
その未来を守るため、
にんげんには何ができるだろう。
そう考えたとき、
緑が鍵を握っていることに気がついた。
二酸化炭素の吸収、
そして食糧やバイオマス需要。
そうだ、
植物を活かさない手はない。
植物科学が世界を変える。

Green Innovation

【プログラム】

13:00-13:10 開会の辞

石山敬貴 (民主党衆議院議員)

黒岩常祥 (日本学術会議 基礎生物科学委員会委員長)

13:10-13:15 本シンポジウムの趣旨説明

福田裕穂 (日本学術会議植物科学分科会委員長)

13:15-13:30 関連研究機関・関連学会の取組みについて

岡田清孝 (自然科学機構基礎生物学研究所長、日本学術会議会員)

篠崎一雄 (理化学研究所植物科学研究センター長、日本学術会議連携会員)

江面 浩 (日本植物細胞分子生物学会会長：各共催学会を代表して)

13:30-16:15 「グリーンイノベーションがもたらすもの」
～バイオマス、バイオエネルギー、バイオリファイナリーから環境保全、食品まで～

【企業サイドから】

植物科学研究への期待

藏野憲秀 (デンソー)

三橋秀一 (バイオエタノール革新技術研究組合)

川上 智 (DOWA)

津布楽洋和 (カゴメ)

John Breen (ダウ・ケミカル日本)

【アカデミアから】

植物研究の貢献

福澤秀哉 (京都大学)

太田啓之 (東京工業大学)

西澤直子 (東京大学)

青木 考 (かずさDNA研究所)

高岩文雄 (農業生物資源研究所)

16:15-17:15 パネル討論とまとめ

「基礎研究から応用研究への『死の谷』をいかに乗り越えるか」

司会：松岡 信 (名古屋大学)

17:15-17:20 閉会の辞

磯貝 彰 (奈良先端科学技術大学院大学長、日本学術会議会員)

平成22年5月29日(土)

13:00~17:20

日本学術会議講堂

(東京都港区六本木 7-22-34)



植物を利用したグリーンイノベーションに向けてのシンポジウム

主催：日本学術会議

共催：日本植物学会・日本植物生理学会・日本植物細胞分子生物学会・
日本育種学会・日本生物工学会・日本光合成学会・日本作物学会
理化学研究所 植物科学研究センター

お問い合わせ

植物科学コミュニティー・事務局
〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科
生物科学専攻 福田裕穂